

芸術選択における参考資料

音楽

授業は、表現（歌唱・器楽）、鑑賞、創作のすべての領域に取り組みます。表現に関しては、音楽のよさや特徴を感じ取り、音楽的根拠をもって考え、どう工夫するかを大切にしています。また、一緒に授業を受ける仲間の表現を尊重し、協働して音楽をつくっていくアンサンブルも行います。鑑賞では、音楽の特徴を聴き取り、作品がつくられた歴史や背景、作曲者が込めたメッセージに迫ります。それぞれが問いを立ててプレゼンテーションをしたり、鑑賞した作品を実際に演奏したり、歌ったりすることでより深く学んでいきます。創作では、音階やコード等の理論を理解した上で、アプリケーションを使用して作曲をします。自分が伝えたい思いを込めたオリジナル作品が出来上がったときの喜びを味わってほしいです。

評価は、観点別評価に基づき、実技（演奏、作品）、ワークシート、振り返りシート、プレゼンテーションなどを通して総合的に判断します。実技では、音楽の特徴から根拠を持って表現しているかや、表現の工夫を重点的に評価します。

副教材にかかる費用は、楽器レンタル(弦楽器)、啓隆社ミュージックノート等で4,000円程度です。

美術

美術では、創作活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情や感性を高め、表現力や鑑賞力を伸ばすことを目標にしています。授業では、中学美術の内容を更に深め、絵画やデザイン、立体の課題制作をはじめ、作品鑑賞を行います。また、グループ活動で、課題に向けて話し合いを重ねたり、制作した作品の相互鑑賞を行ったりして、コミュニケーション能力を高めていきます。一定期間、課題に向けて活動するプロセス（過程）は、皆さんに今求められている「探究活動」や将来の「社会活動」に関わる大切な学習の一つです。

評価は、3観点評価に基づき、課題作品・制作の記録・レポートなどを通して総合的に判断します。

制作に必要な用具や画材等の教材は、学校側でまとめて購入し、準備します。教材費が3,500円程度必要となります。

書道

書道では、生活や社会の中にある文字や、書の伝統と文化に、多様なよさや美しさを味わい捉える「鑑賞」と、意図に基づいて表現を工夫する「表現」の活動を通して関わり、感性や豊かな情操を培い、生活や社会を心豊かに創造していく態度を養うことを目標にしています。

授業では、「漢字」や「仮名文字」の歴史や表現方法を学び、それらを交えた「漢字仮名交じり」の書では好きな言葉を選んで作品を創作します。また、刻字作品制作なども行います。評価は、作品点だけでなく、制作の過程やパフォーマンステストなどを通して総合的に判断します。

硯・下敷き・文鎮は学校のものを使います。筆・筆巻き・紙・墨などの消耗品は同じものを準備するために、教材費として3,600円程度必要になります。